

自らを貶損(へんそん)して権を全うせり

江戸時代は、長い「ゼロサム社会」だったと言います。平穏に幕藩体制を維持していくため、優れたリーダー（幕閣）たちは、人間の求める「名誉」「権力」「富」といった欲を「位」「権」「禄」の形で分与することによって、満足する者を増やし均衡を保とうとしたということですが……。

現代は、その「位」「権」「禄」が一箇所に集中し、多くの人が満足することが難しくなっています。

そのうち「権」について、春秋三伝の一つ「春秋公羊傳（しゅんじゅうくようでん）」では、「権を行ふに道有り 自づから貶損して以て権を行ふも人を害なひて以て権を行はず」と説いていますが、「権」を預かる者には、肝に銘ずべき言葉です。

学校の教職員の個性は、いろいろです。どんなに度量の広い人でも、全てと相性が合うということはないでしょう。中には馬が合わない職員が一人や二人必ずいるものです。

しかし、学校の組織力を最大限に発揮するには、一人一人の持つ力をフルに働かせる必要があります。えこひいきをして派閥を作らず、仮に馬が合わない職員がいたとしても、相手には悟られず、常に「公正公平」にふるまうことが、リーダーには求められます。

A先生は、『人を活かす』ことに視点を置き、『公正公平』に努めよ！それが、新たな意欲を生む。」が口癖でした。

夫婦で教員でしたが、なぜか、奥さんは、定年前に後進に道を譲られたように覚えています。

「自ら貶損して権を全うせり」その言葉どおり職責を全うされ、夫婦そろって立派な「権」の担い手でした。